



にしチャレ

チャレンジ13

なぜ勉強するのか？～ドラマを見て～

「どうして勉強するんですか、私達。この前先生は言いましたよね。いくら勉強して、いい大学やいい会社に入ったって、そんなの何の意味もないって。じゃあどうして勉強しなきゃいけないんですか？」

勉強は、しなきゃいけないものじゃありません。したいと思うものです。

これからあなた達は知らないものや理解できないものに沢山出会います。美しいとか、楽しいとか、不思議だなどと思うもの沢山出会います。そのとき、もっともっとそのことを知りたい、勉強したいと自然に思うから人間なんです。

自分たちの生きているこの世界のことを知ろうとしなくて何ができるというんですか。いくら勉強したって、生きている限り分からないことはいっぱいでもあります。世の中には、何でも知ったような顔した大人がいっぱいいますが、あんなものは嘘っぱちです。良い大学に入ろう良い会社に入ろうが、いくつになっても勉強しようと思えばいくらでもできるんです。（日本テレビ「女王の教室」2005年～）

※登場人物のセリフはインターネットより引用しました

休日にインターネットの動画を見ていたら、日本テレビドラマ「女王の教室」に辿り着きました。初めは何となくみていたのですが、上記の場面に差し掛かりハッとしました。女王の教室は新任教師として赴任した天海祐希さん演じる阿久津先生が、6年3組の児童に対し、強権的な指導を行う学園ドラマです。強権的な指導の裏には・・・というところがドラマの肝となっており、学ぶ意義、真の自立といったことがテーマになっています。

目的なのか手段なのか？

勉強は、しなきゃいけないものじゃありません。したいと思うものです。



阿久津先生

勉強は手段ではなく
目的である！

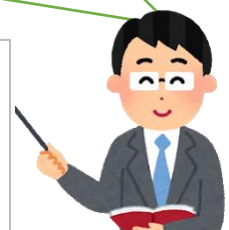
- ・勉強したいから勉強する。
- ・勉強そのものが面



なぜ勉強しない
といけないの？

**「いい大学やいい会社に入るため」
「夢をかなえるため。」
「将来に向けての選択肢を増やすため。」**

勉強は他の目的を
達成するための
手段である。



多くの考え

主観ですが

わたしはこう考えています。勉強は目的であり、手段でもある！（はっきりしませんが！）というのも子どもはそれぞれだからです。

「頑張って、自学をしたら家族にほめてもらった。」「将来、ピアノの先生になりたい。」「あの高校、あの大学に入りたい。」このように考えている子どもは、勉強をすることによって得られる対価によって高い達成感を味わい、人生をより豊かにしています。

「戦国武将を自学で調べてきた。」「ダンスが大好き。」「小説を書いてみた。」このような学びをしている子どもは勉強そのものを楽しみを見出し、人生をより豊かにしています。子どもたちの様子を見てみると低学年は大人の期待に応えようと手段的に勉強し、高学年になるにつれ目的的に学んでいる感じがします。

しかし、勉強が楽しくなく学ぶ意義を感じにくい子どもたちもいます。このような子どもたちについては家庭と学校がしっかり連携をして動機づけを得られるようにしたいと思います。